

南郷小で防災教育講演会

東日本大震災後に被災した子どもたちの教育に関わってきた方々の声を聞き、南海トラフ地震が起きた時、教育現場でできる対応を学ぶことを目的に、8月25日(木)、「防災教育講演会」が南郷小学校で開催され、教職員や町内外の地域住民など約30人が参加しました。

講演会では、岩手県一関市教育委員会ICT指導員の鈴木利典とりのりさんを講師に迎え、鈴木さんが震災翌年から定年退職するまでに勤務した被災地の中学校3校の話や、震災後の子どもたちの心のケア、学校の存在の重要性、災害発生時の支援助物資の課題、防災・減災教育の課題などについて話がありました。



講演会の様子

四万十市から来場した東加代ひがしかよさんは、「自宅は高台だから大丈夫という思いがあり、外出先で震災に遭遇した時のことを考えていなかった。避難場所のことなど、改めて家族できちんと話し合いたいと思う」と話しました。

JICA四国研修員が黒潮町で防災研修プログラムに参加

国際協力機構JICA四国の研修員として四国内の大学で専門分野を学ぶ10名が8月30日(火)・31日(水)、黒潮町を会場にした防災研修プログラムに参加しました。

参加した研修員は、ブルキナファソ、ネパール、バヌアツなどの計7カ国出身。研修では、佐賀津波避難タワーの視察、防災講演、砂浜美術館の視察、大方高校生とHUG(避難所運営ゲーム)の体験授業などを行いました。また、1日目の夕食には、集落活動センター北郷が地域の食材などを使用して調理したお弁当を食しました。研修員からは、「防災を文化にする取組は素晴らしい」などの感想がありました。



高校生とHUGを体験する研修員ら

FCKUROSHIO84が全国大会に進出

FCKUROSHIO84が、9月4日(日)に香川県で開催された「第29回全国クラブサッカーチーム選手権大会」に出場しました。

同大会は、各県で行われた四国4県の予選大会を勝ち抜いた4チームで準決勝、決勝を行い、優勝したチームが四国代表として全国大会へ進出できるというもの。同クラブは見事優勝し、全国大会への進出が決定しました。

同クラブキャプテンの宮本敬太さんは、「一人ひとりがチームのために戦った結果。全国大会では、目の前の試合を1つずつ勝ち進んでいければ」と話しました。

また、久保田聖也監督は、「四国大会当日は、猛暑でかなりハードな試合だった。全国大会では1勝をめざしたい。選手にとっても



FCKUROSHIO84の皆さん

良い経験になれば」と話しました。全国大会は、10月29日(土)から三重県で開催されます。

神戸学院大学の学生と大方高校生が防災ワークショップで交流

9月15日(木)、神戸学院大学現代社会学部社会防災学科3・4回生の学生ら11名が高知県での防災現地研修の一環で大方高校を訪れ、同校1年生22名とともに防災をテーマとしたワークショップを行いました。

ワークショップでは、「明日南海トラフ地震が起きるとしたら、今日何をしておきたいか」についてを考え、チーム別に話し合いました。

同校の竹外心春たけそとこはるさんは、「防災を学習している大学生だからこそわかる視点やアイデアが聞けて勉強になった。今後の学習に活かしていきたい」と話し、また、同大学の稲澤遥樹いなざわはるかさんと國松万熙くにまきさんは、「南海トラフ地震が起きた場合の津波想定が日本で1番の黒潮



ワークショップの様子

町で唯一の高校ということもあり、防災への意識が全然違うと感じた。貴重な経験になった」と話しました。